

# No. 1330

## 夏を創る

—山梨・市川大門—

夏の夜空を彩る花火。山梨県の南東に位置し、のどかなたたづまいを見せる市川大門町。この町ではその昔花火の生産が盛んに行われていたが最近、中国をはじめとする外国製の花火が入ってきたことにより、だんだん少なくなってしまった。花火がこの町でいつごろから作られるようになったかさだかではないが、江戸中期に書かれた書物に花火の製造法が記してあるところを見るとそれ以前であることは間違いない。町にただ一軒残っている花火店、この店では毎年、大、小合わせて数万発の花火を作っている。打ち上げ花火の命と言われる小さな火薬の玉は星と呼ばれ、菜種を芯に作られる。光と色を考え、種々な火薬が何ヶ月もかけていく重にも重ねられていく。星を玉につめる。直径8寸の打ち上げ花火で300個以上の星が必要だ。花火作りは全くの手作業、その上危険物であるため一人前の職人になるのに10年はかかる。この店の3代目の斉木慶彦さんは夏をつくり続けて30年のベテラン。それでも細心の注意を常に払うという。玉に紙を貼りつける。最後の仕上げだ。花火がうまく割れるように中の割火薬とのバランスを考えながら貼っていく。これを判断するにはなが年の経験が必要だ。長い時間と30をこえる工程を経て花火はでき上がるのである。

## 小林・江川すれちがい、KO

大騒ぎされる割には今一つものたりない江川。開幕から好ダッシュ、かつての仲間ともなごやかに、余裕をみせる小林。混戦を続けるセ・リーグ。7月7・8日の両日、後楽園球場では巨人・阪神の2連戦が行なわれました。阪神はいきなり掛布がライトオーバーの22号ホームラン。スタントンには打った瞬間ホームランとわかる9号ホームラン。江川相変わらず一発病です。巨人内野陣の乱れからランナー三塁・二塁となると、長島監督は早くもリリーフに角を送り、江川あえなくKO。開幕以来小林に5連敗を喫している巨人は左中心の新オーダー。王も2本足に近い打法でヒットを奪います。4番山本、5番柳田も期待にこたえ連続ヒット。小雨にマウンドがすべるのか、調子でない小林。小林コンプレックスをふきとばすかのよう打ちまくる巨人の新打線。結局小林は5回1/3でKO、この2連戦、江川・小林ともにKO、途中でマウンドを降りました。